

放射性物質拡散シミュレーションの新たな表示下限値について

新たな下限値図面作成の考え方

新たな表示下限値については、現行表示下限値の半分の数値を参考として示すこととする。

(1) 内部被ばく(ヨウ素)

現行表示下限値：甲状腺等価線量 5.0 mSv 新規表示下限値：2.5 mSv

(2) 外部被ばく(セシウム等)

現行表示下限値：年間実効線量 2.0 mSv 新規表示下限値：1.0 mSv

専門家の主な意見

< 誤差・精度の観点 >

- ・今示している下限値の半分程度までならば、誤差の大きな問題はないと考える

甲状腺等価線量なら 2.5 ミリシーベルト程度

外部被ばく実効線量なら 1.0 ミリシーベルト程度

< 防災対策とのリンクの観点 >

- ・防災対策との関連において、県の示した現在の下限値には合理性がある
- ・そもそも、このシミュレーションは、固定的に捉えるべきではなく、傾向を捉えるべきもの
- ・現在示している下限値未満の線量については、特に防災対策は考えられないのではないか